第３１３回　令和８年１０月２１日（水）

「フィルターバブルとエコーチェンバー」

　マシューサイド著「失敗の科学」と「多様性の科学」を読了しました。日本の研究者が書いた本は割と難しい文章が多い気がしますが、外国の方の本はエビデンスをストーリーで読ませてくれるので本当に面白いです。特に「失敗の科学」は繰り返し読んでいます。

　その中に、フィルターバブルとエコーチェンバーについて書かれた章がありました。私はどちらも似たようなものだと思っていたのですが、実は及ぼす影響力が結構違うことに驚きました。

　フィルターバブルは情報の泡というイメージです。自分と異なる意見を外部から入れない状態です。戦時中の日本などがそうでした。日本軍の不利な情報は徹底的に排除していました。

　こちらの情報統制はものすごく強力なのかと思いきや、情報が入ってきた戦後の日本を思い返せばわかるように、今まで信じてきた事実と違う情報に触れると劇的に洗脳が解けることがあります。バブルがはじける状態によって、意外ともろさを露呈してしまうものだということです。

　県立高校の教員は異動があります。学校ごとに文化が結構異なっているので異動に伴って意識が変わることも多いのですが、ほとんどのことはすぐに慣れてしまいます。大事なことは自分の立ち位置を変えたり、外の世界を見る機会をつくったりすることです。

　一方怖いのはエコーチェンバーです。こちらは外部の情報を遮断しません。自分と違う価値観と触れ合うこともあるのですが、その際徹底的に悪意を持って異なる価値観を攻撃します。極端な場合は「陰謀論」などによって反対意見が敵であることを意識に植え付けてしまいます。

　こうなると新しい情報に触れてもなかなか信じることができなくなります。20 世紀にあった新興宗教団体の事件においても信者の洗脳を解くのに大変な労力を必要としました。
　中途半端に外部の情報と接触できるほうが厄介な状況に陥りやすいということです。

　ネットの記事でも自分の考えと違う意見を見た時に「これは隠蔽だ」とか「陰謀だ」と憤りを感じるようだとエコーチェンバーに毒されているのかもしれません。意見というのは多種多様であり、自分と違ったり少数だったりする理由で否定することはあまり良いことではありません。

　違った意見があるということを受け入れるだけで良いのです。別にその意見に賛成せず反対のままでも構いません。排除をしない意識を持つことが多様性の理解につながります。
　大国のリーダーがエコーチェンバーの毒に侵されているような気がします。それはものすごく危ないことではないでしょうか。